

地表地震断層と地質構造から見た令和 8 年熊本地震

産総研 地質調査総合センター

ポイント

- 令和 8 年熊本地震で活動した日奈久断層帯に関して、地質、地下構造、変動地形、古地震等に関する調査研究が実施されてきた。
- 産総研では令和 8 年熊本地震で生じた地表変状・地表地震断層を把握するための緊急現地調査を組織的に実施し、約 37 km にわたって地表地震断層を確認した。
- 緊急現地調査で確認できた地表地震断層による右横ずれ変位は最大で 184 cm、上下変位は最大で約 130 cm であった。日奈久断層帯 高野—白旗区間では、平成 28 年熊本地震による地表地震断層と同じ場所に地表地震断層・地表変状が生じた。
- 計測結果にもとづいて横ずれ変位量の空間分布を示した。横ずれ変位量は日奈久断層 日奈久区間（氷川付近）と高野—白旗区間北部（高木付近）にそれぞれピークを持つ。

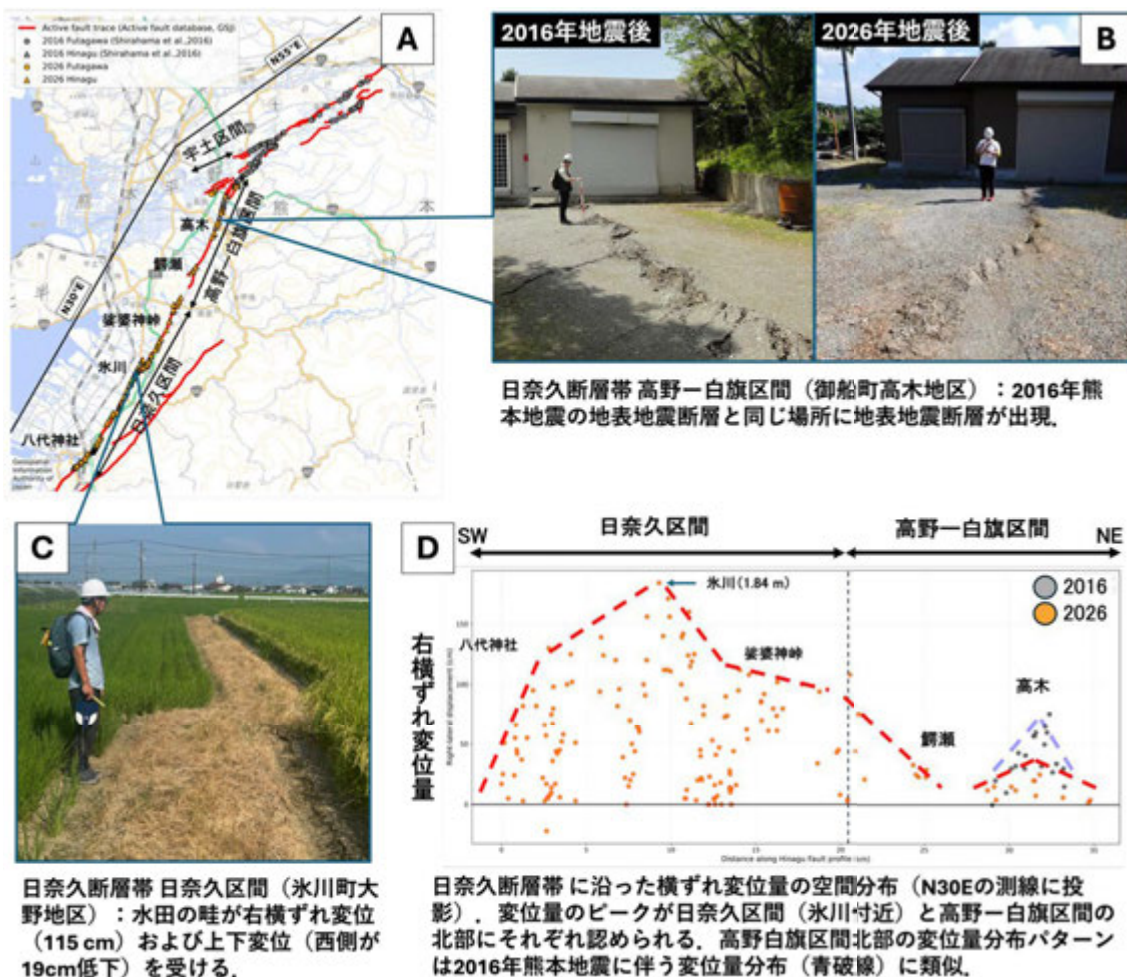


図. (A) 緊急現地調査による地表地震断層の変位量計測地点, (B) 日奈久断層帯 高野—白旗区間において 2016 年と 2026 年の熊本地震でそれぞれ同じ位置に出現した地表地震断層, (C) 日奈久区間における水田の畦に見られる右横ずれ変位, (D) 緊急現地調査による日奈久断層に沿う横ずれ変位量の空間分布.